

## 2020 年度支部活動【中部支部】

### 「コロナ禍の経験から考えるオンラインとオフラインの共存の可能性」 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2020 年 10 月 30 日(金) 会場：オンライン (Zoom)

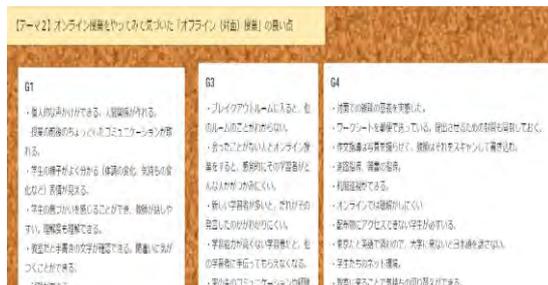
参加者：24 名 (会員 13 名・一般 11 名)

「コロナ禍の経験から考えるオンラインとオフラインの共存の可能性」を、10 月 30 日 (金) に実施しました。本イベントは、コロナウイルス感染拡大の影響により、十分な準備時間もないままオンライン授業に取り組む中で気が付いたオンラインの良さや、オフライン (対面) だからこそできることの気づきを共有し、今後のオンラインとオフラインの共存の可能性を考えることを目指しました。中部支部活動でしたが、国内の様々な地域からの参加はもちろん、海外 (ドイツやミャンマー) からの参加者もあり、それぞれの参加地域の事情からオンラインとオフラインの共存の可能性を考え、それを共有する機会を持つことができました。

3 回のグループディスカッション (①オンライン授業をやってみて気づいた「オンライン」の良い点 ②オンライン授業をやってみて気づいた「オフライン (対面)」授業の良い点 ③オンラインとオフラインの共存の可能性) を padlet を用いて情報共有を試みました。

1 回目のディスカッション (「オンライン」の良い点) では、「ブレイクアウトを使うことによりグループワークが活性化し、積極的な活動ができる」「学生一人一人の発音が聞きやすい」「オンライン学習システムを利用することで課題の管理がしやすくなった」「学生のペースで何度も動画を見るなどして復習ができる」などの意見がだされ、環境が整ったうえでのオンラインのメリットを参加者それぞれが感じていることが分かりました。

2 回目のディスカッション (②「オフライン (対面)」授業の良い点) では、「対面での雑談の意義を実感した」「文字を書かせるとき、書いている過程が分からない」「教室での学び合いが十分にできない」などの意見が出され、オンラインが始まったことで改めてオフライン (対面) の良さへの気づきがあったようでした。



3 回目のディスカッション (オフラインとオンラインの共存の可能性) では、「共存」が何を示すのかや、具体的にどのように共存させていくかについても議論が行われました。「日本人にインタビューをするなど、活動の特色からオンラインとオフラインを使い分けられる」というグループで共通した意見が出されていました。また、「オンラインとオフラインの良い点を組み合わせるだけでは、必ずしもプラスにはならない」などの意見が出され、これまでの体験から意見を出し合ったことで、今後のオンラインとオフラインの共存について深く考えるきっかけとなっていました。

私たちも、参加者の皆さんの日々の実践や取り組みからの意見から、オンラインとオフラインの共存の可能性を改めて学習者の視点に立って考える必要があると感じました。この場を借りて、本イベントにご参加くださった皆様、そしてご協力くださった関係者の皆さまに心より感謝いたします。

(報告者 支部活動委員：川口直巳・近藤有美・林朝子 支部活動運営協力員：松尾憲暁・山本裕子)